令和６年度 摂津市学力定着度調査 結果概要報告（１年）

令和７年３月１０日
摂津市立鳥飼北小学校

□実施日　令和６年１２月５日（木）

□目的

①児童一人ひとりが取り組むべき課題を明確にし、主体的に学ぶ意欲を向上させるとともに、
　個々の児童の指導に活かすこと
②学校が個々の児童の学習定着状況を把握し、指導体制及び指導計画の改善を図るとともに、
　教員一人ひとりの指導の改善に活かすことで学習指導を充実させること
③本市教育委員会が、調査の結果をもとに学力向上を図るための施策の充実を図ること

□本校教育目標

『一人ひとりがいきいきと輝く学校』

□今年度研究テーマ

『自分の考えを持って、表現できる子の育成』

国語

正答率(%)

	総合	基礎	活用
全国値	74.0	77.6	67.3
摂津市	72.2	76.9	63.3
鳥飼北	63.5	69.3	52.7

□大切に取り組んできたこと

・ひらがな・カタカナ・漢字などの読み書き
・音読学習

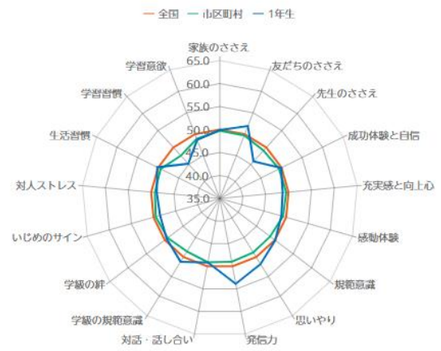
□成果（〇）と課題（▲）

〇漢字を読むことができていた。
〇「へ」「を」「は」の使い方が分かる。
▲説明文を読む力
▲自分の考えを文章で表す力

□今後の取組みについて

①文章を読む力をつける…教科書の文章を読めるようになる。言葉の意味を考えたり、説明する。文章を読む機会を増やす。
②文章で表す力をつける…自分の考えを言うことから始め、ペアに伝える練習や作文・ノートに自分の考えを書く時間を多くとる。

児童質問紙調査



□大切に取り組んできたこと

・学習規律を身に付ける。　・ペアでの話し合い
・自分の気持ちを相手に伝える。

□成果（〇）と課題（▲）

〇楽しかったことや悲しかったことを先生やお家の人につたえることができる児童が増えた。⇒発信力
〇人間関係を構築し、よりよい関係をつくることが少しずつできるようになった。⇒友だちのささえ・思いやり
▲学習習慣が身についていない児童も多い⇒宿題の提出
▲学習意欲の低さ⇒手をあげること、粘り強く向き合う

□今後にむけて

①学習習慣を身に付ける…自分のペースで、毎日取り組めるよう声をかける。また、取り組んできたことを認め、ほめて、習慣化し、継続できるように支える。自主学習にも取り組ませる。
②学習意欲の向上…わかりやすい・認められる授業【やる気】、一人でじっくり取り組む時間【粘り強さ】、友だちと教え合い、伝え合いの時間【つながり】を意識した授業づくり

算数

正答率(%)

	総合	基礎	活用
全国値	81.1	84.3	68.9
摂津市	80.9	83.8	69.7
鳥飼北	75.3	78.6	62.7

□大切に取り組んできたこと

・具体物でイメージすること
・ブロックや手、さくらんぼ計算を使いながらも粘り強く取り組むこと

□成果（〇）と課題（▲）

〇１けたの計算、十何の計算、３つの数の計算
〇かさや長さを比べる
▲しきから文章問題を選ぶ
▲しきから適切な文章問題をつくる。

□今後の取組みについて

①基礎基本…授業のはじめ、３学期のまとめに取り組んで定着させる。
②文章問題…文章の大事なところに線を引いたり、印をつけるように取り組む指導を行う。
　文章問題から図や絵を描く活動を行う。

令和６年度 摂津市学力定着度調査 結果概要報告（２年）

令和７年３月１０日
摂津市立鳥飼北小学校

□実施日　令和６年１２月５日（木）

□目的

①児童一人ひとりが取り組むべき課題を明確にし、主体的に学ぶ意欲を向上させるとともに、
　個々の児童の指導に活かすこと
②学校が個々の児童の学習定着状況を把握し、指導体制及び指導計画の改善を図るとともに、
　教員一人ひとりの指導の改善に活かすことで学習指導を充実させること
③本市教育委員会が、調査の結果をもとに学力向上を図るための施策の充実を図ること

□本校教育目標

『一人ひとりがいきいきと輝く学校』

□今年度研究テーマ

『自分の考えを持って、表現できる子の育成』

国語

正答率(%)

	総合	基礎	活用
全国値	75.9	83.5	60.8
摂津市	76.6	83.2	63.6
鳥飼北	74.5	80.3	62.8

□大切に取り組んできたこと

・たくさん書くことに慣れること
・ペア、班交流

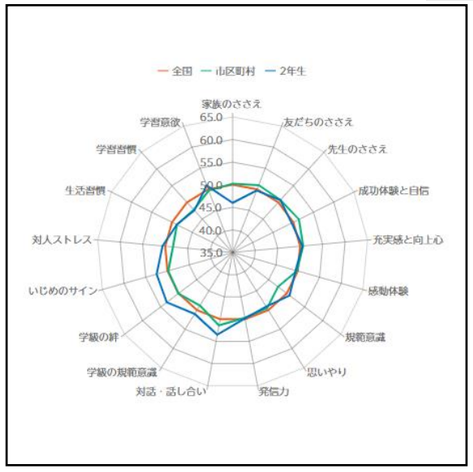
□成果（〇）と課題（▲）

〇文章を書く力はついている。
〇誰とでも交流ができる。交流することへの抵抗がない。
▲文章を読み取る力
▲漢字を書く

□今後の取組みについて

文章を読み取る力をつける…音読をする。自分の考えを教科書から探す練習をする。国語辞典を使い、言葉の意味を知り、語彙力を増やす。
漢字の読み書き…宿題で継続して漢字を出題し、正確に書けるまでお直しをさせる。

児童質問紙調査



□大切に取り組んできたこと

クラスみんなで取り組もうとする意識づけ。
ルールの徹底

□成果（〇）と課題（▲）

〇みんなでを意識させたことで、クラスの絆が高い。
〇話し合い等で、大多数が自分の意見を言うことができる。
▲家族の支えが少ない
▲学習習慣が低い

□今後にむけて

家族の支えが低い…保護者を交えた学習が少なかった。学習の中で、家庭を巻き込んだ内容を入れていく。
学習習慣が低い…学童児童が多いこともあるが、定期的に自主学習をさせたり、取り組みやすいような教材を用意したりする。

算数

正答率(%)

	総合	基礎	活用
全国値	69.1	76.6	44.5
摂津市	72.7	79.5	50.6
鳥飼北	73.5	78.8	56.3

□大切に取り組んできたこと

・基礎基本の徹底
・文章問題に慣れさせる。

□成果（〇）と課題（▲）

〇基本的な計算ができ、定着している。
〇宿題で、各単元を定期的に復習したこと。
▲表やグラフの読み取り
▲引き算が苦手

□今後の取組みについて

読み取るちからをつける…グラフや表を用いた問題を解く回数を増やす。（宿題など）
引き算が正確にできるようになる…ひっ算のやり方（特に繰り下がり）を復習し、練習する。

令和６年度 摂津市学力定着度調査 結果概要報告（３年）

令和７年３月１０日
摂津市立鳥飼北小学校

□実施日　令和６年１２月５日（木）

□目的

①児童一人ひとりが取り組むべき課題を明確にし、主体的に学ぶ意欲を向上させるとともに、個々の児童の指導に活かすこと
②学校が個々の児童の学習定着状況を把握し、指導体制及び指導計画の改善を図るとともに、教員一人ひとりの指導の改善に活かすことで学習指導を充実させること
③本市教育委員会が、調査の結果をもとに学力向上を図るための施策の充実を図ること

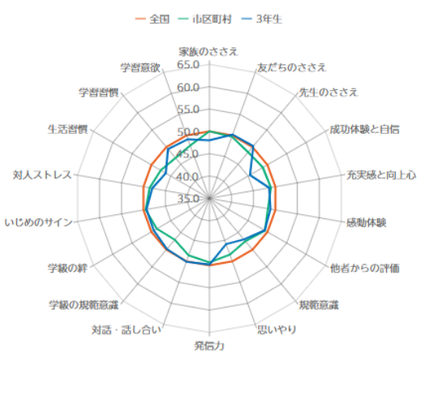
□本校教育目標

『一人ひとりがいきいきと輝く学校』

□今年度研究テーマ

『自分の考えを持って、表現できる子の育成』

児童質問紙調査



□大切に取り組んできたこと

・周りを見て助け合って過ごすように学習面でも生活面でも意識して取り組んできた。
・一人ひとりと丁寧にかかわってきた

□成果（〇）と課題（▲）

〇横のつながりを大事にする意識を続けてきたことで、友だちの支えや先生の支え、学級の絆は◎
〇規範意識も◎
▲成功体験と自信が低い

□今後にむけて

スモールステップを設定し、まずは自分にできるところから成功体験を積ませていくことで、自信につなげていきたい。また、取り組んできたことを認め、褒める声かけを意識していきたい。

国語

正答率(%)

	総合	基礎	活用
全国値	62.3	65.0	56.5
摂津市	61.6	63.7	57.1
鳥飼北	52.0	54.2	47.3

□成果（〇）と課題（▲）

〇漢字の音読みと訓読みについて理解している。
〇相手や目的を意識した表現で、文章を推敲することができる。
▲聞き取り
▲説明文の読み取り
▲文章を書く

□今後の取組みについて

・文章を読み取る力をつけるために、まずは短い文章からなど、スモールステップで読む練習をする。
・国語辞典を使い、言葉の意味を知り、語彙力を増やす。

算数

正答率(%)

	総合	基礎	活用
全国値	70.9	75.7	58.9
摂津市	66.3	71.6	53.2
鳥飼北	60.9	66.3	47.7

□成果（〇）と課題（▲）

〇数の相対的な大きさについて理解している。
（10000 より大きい数）
▲基本的な四則計算

□今後の取組みについて

・算数の基礎的な計算を継続的に行う。
・習熟度別学習で子どもたちの実態に合わせながら、授業を考え、一つひとつ丁寧に指導していく。
・正答率度数分布表を見ると、中間層の割合が全体的に低いため、交流や個別的な支援を行い、中間層の人数を増やしていきたい。

理科

正答率(%)

	総合	基礎	活用
全国値	62.7	65.8	56.6
摂津市	58.2	62.2	50.3
鳥飼北	51.7	54.8	45.6

□成果（〇）と課題（▲）

〇実験の内容をもとに、結果から正しい考察をすることができる。
〇すでにある結果をもとにして、変化を知るための構想をすることができる。
▲理科の基本的な知識が身についているが、活用問題や応用的な問題は解答する力が弱い。

□今後の取組みについて

・授業の中でも身近なものと結び付けて話をするなど、知識だけで終わらず活用していくようにする。

令和６年度 摂津市学力定着度調査 結果概要報告（４年）

令和７年３月１０日
摂津市立鳥飼北小学校

□実施日　令和６年１２月５日（木）

□目的

①児童一人ひとりが取り組むべき課題を明確にし、主体的に学ぶ意欲を向上させるとともに、
　個々の児童の指導に活かすこと
②学校が個々の児童の学習定着状況を把握し、指導体制及び指導計画の改善を図るとともに、
　教員一人ひとりの指導の改善に活かすことで学習指導を充実させること
③本市教育委員会が、調査の結果をもとに学力向上を図るための施策の充実を図ること

□本校教育目標

『一人ひとりがいきいきと輝く学校』

□今年度研究テーマ

『自分の考えを持って、表現できる子の育成』

国語

正答率(%)

	総合	基礎	活用
全国値	69.9	72.8	64.4
摂津市	70.4	73.2	65.2
鳥飼北	58.8	63.7	49.4

□成果（〇）と課題（▲）

〇漢字の正答率が高い。特に読み。
〇自分の考えを書くこと。
▲要約する力。その背景として語彙力が少ない
▲文章を書く力

□今後の取組みについて

週に１回行っている作文指導を継続して行う。その中で段落に分ける指導や語彙を増やす指導を行う。

算数

正答率(%)

	総合	基礎	活用
全国値	68.0	70.9	60.9
摂津市	69.7	71.8	64.7
鳥飼北	60.3	62.5	55.1

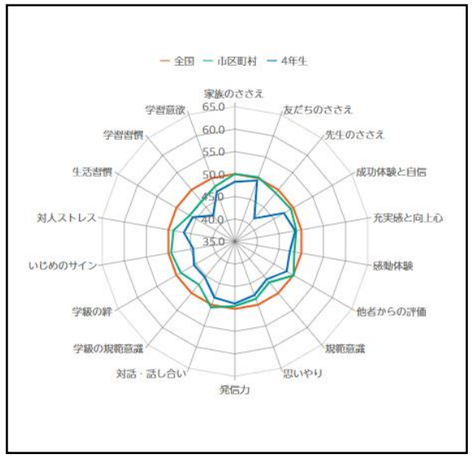
□成果（〇）と課題（▲）

〇作図問題
〇計算のきまりの問題。
▲基本的な四則計算
▲説明する問題

□今後の取組みについて

算数の基礎的な計算を継続的に行う。習熟度別ですいすいコースなどでは、説明する問題を扱う機会を増やす。

児童質問紙調査



□大切に取り組んできたこと

みんなで楽しく過ごす。（会社活動やお楽しみ会）
ルールの中で楽しむこと

□成果（〇）と課題（▲）

〇自分たちの状況をわかる子が増えた。＝納得の結果
〇よくするための声掛け＝発信力は伸びてきた。
▲学習習慣の低さ＝宿題の提出率も低い
▲全体的な学校への満足度の低さ＝学習や人間関係など
　自分の思い通りにいかないことから逃げる子が多い。

□今後にむけて

学年としては、楽しいことが大好きなので会社活動などみんなが楽しめるような活動を考える時間を続けていき、やってよかった経験を増やしていく。また高学年になり、自分から見た相手や周りから見た自分の姿が見え始めてきているので、その点を意識した声掛けを個別にしていく。

理科

正答率(%)

	総合	基礎	活用
全国値	57.0	64.4	42.3
摂津市	62.4	70.1	46.9
鳥飼北	56.3	65.9	37.1

□成果（〇）と課題（▲）

〇基礎問題の正答率は全国レベルだが、活用能力は下回っている。知識技能、思考判断表現もほぼ全国レベル。
▲物理領域の正答率が低い。記述問題の正答率が低く、無解答率が高い。10 人程度が記述問題に取り組んでいない。グラフや資料を読み取ったり、活用したり、問題の意図を読んで解答する力が弱い。

□今後の取組みについて

実験の意義や結果の理由を理解せず、結果のみの理解になっている。実験の結果を、言葉にしたり、日常生活における経験を実験に結びつける予想を大切にした授業展開を考える。事象を単語だけで覚えるのではなく、説明ができるよう、言語化を大切にする。

令和６年度 摂津市学力定着度調査 結果概要報告（５年）

令和７年３月１０日
摂津市立鳥飼北小学校

□実施日　令和６年１２月５日（木）

□目的

①児童一人ひとりが取り組むべき課題を明確にし、主体的に学ぶ意欲を向上させるとともに、個々の児童の指導に活かすこと
②学校が個々の児童の学習定着状況を把握し、指導体制及び指導計画の改善を図るとともに、教員一人ひとりの指導の改善に活かすことで学習指導を充実させること
③本市教育委員会が、調査の結果をもとに学力向上を図るための施策の充実を図ること

□本校教育目標

『一人ひとりがいきいきと輝く学校』

□今年度研究テーマ

『自分の考えを持って、表現できる子の育成』

国語

正答率(%)

	総合	基礎	活用
全国値	71.9	77.1	60.2
摂津市	69.1	73.5	59.3
鳥飼北	64.5	71.1	49.8

□成果（〇）と課題（▲）

〇報告文を書くにおける正答率は、期待値より高い。
〇漢字の読みは、目標値より高い。
▲「説明文の内容を読み取る」における正答率が低い。
▲「文章を書く」における正答率が低い。

□今後の取組みについて

・書く力を育成するために、低学年から教科書に基づいた学習を系統立てて行うことが大切。
・家庭との連携・読書活動の充実・朝学の活用（プリント）

算数

正答率(%)

	総合	基礎	活用
全国値	62.2	68.2	49.8
摂津市	59.8	63.7	51.6
鳥飼北	57.4	63.5	44.8

□成果（〇）と課題（▲）

〇図を使って、場面に合った式を選ぶことができる。
〇「小数のかけ算・わり算」における正答率が高い。
▲「最大公約数」を適用する問題での正答率が低い。
▲「図形」領域での定着が不十分である。

□今後の取組みについて

・場面を数直線などの図に表して式につながる学習を継続して大切にしていく。
・図形のイメージを広げられる ICT 教材の有効な活用

理科

正答率(%)

	総合	基礎	活用
全国値	69.3	76.1	54.0
摂津市	64.0	70.0	50.5
鳥飼北	62.5	69.3	47.2

□成果（〇）と課題（▲）

〇基礎問題、知識技能、地球領域の正答率は市町村レベル。
▲植物の単元、活用問題、思考判断表現力が低い。実験の意義や条件に照らし合わせて考える力が弱い。予想・結果・考察という思考の流れが定着していない。実験の手順や実験器具の使い方を言葉で理解していない。短文回答の未回答は 15 人ほどいる。評定 3 が 42.6%、1 が 44.3%と学力が二極化している。

□今後の取組みについて

5 年理科は条件制御の考え方の定着が大きな目標である。実験方法や実験の意義などをもっと考えさせたい。また、実験器具の扱いにも時間を取る。事象を単語だけ覚えるのではなく、説明ができるように授業を工夫する。

児童質問紙調査

□大切に取り組んできたこと

人と人、言葉と言葉、心と心のつながりを大切に取り組んできた。

□成果（〇）と課題（▲）

〇友だちのささえの項目が高い。
〇他者からの評価の項目が高い。
▲社会性、学習環境ともに規範意識の項目が低い。
▲生活習慣、学習習慣ともに低い。遅刻や宿題忘れが多い。

□今後にむけて

卒業式の練習を通して、「最高学年」になるということを自覚し、責任感を持って行動できる集団をめざす。保護者の方と学校の取組みや日々の授業の様子を共有し、学校と家庭とが連携して児童の学習や学校生活を支えていく。

令和６年度 摂津市学力定着度調査 結果概要報告（６年）

令和７年３月１０日
摂津市立鳥飼北小学校

□実施日　令和６年１２月５日（木）

□目的

①児童一人ひとりが取り組むべき課題を明確にし、主体的に学ぶ意欲を向上させるとともに、
　個々の児童の指導に活かすこと
②学校が個々の児童の学習定着状況を把握し、指導体制及び指導計画の改善を図るとともに、
　教員一人ひとりの指導の改善に活かすことで学習指導を充実させること
③本市教育委員会が、調査の結果をもとに学力向上を図るための施策の充実を図ること

□本校教育目標

『一人ひとりがいきいきと輝く学校』

□今年度研究テーマ

『自分の考えを持って、表現できる子の育成』

国語

正答率(%)

	総合	基礎	活用
全国値	69.9	70.8	68.3
摂津市	67.2	69.1	63.6
鳥飼北	61.6	64.8	55.6

□成果（〇）と課題（▲）

〇６年生の漢字を正しく読んでいる。
〇「文章を書く」の正答率が高い。
▲５年生の漢字が定着していない。
▲「言葉の学習」の理解できていない。

□今後の取組みについて

・文法などの小単元の学習にもっと力を入れる。
・漢字の宿題を丁寧に書かせる。ひらがなを見て漢字を書くようにする。

算数

正答率(%)

	総合	基礎	活用
全国値	67.3	71.2	58.4
摂津市	67.7	71.2	59.6
鳥飼北	63.9	68.3	53.9

□成果（〇）と課題（▲）

〇「分数のかけ算・わり算」での正答率が高い。
〇「数直線」を理解し、使いこなすことができている。
▲「比と比の値」の理解が定着しきれていない。
▲記述問題における「無解答」の割合が高い。

□今後の取組みについて

・授業内容を実生活と結びつける課題の設定
・授業の中で、自分の考えを式や図、文章などで表現する機会を設け、記述問題への抵抗感をなくす取組み

理科

正答率(%)

	総合	基礎	活用
全国値	64.1	66.4	57.6
摂津市	59.2	61.8	51.8
鳥飼北	55.2	58.6	45.7

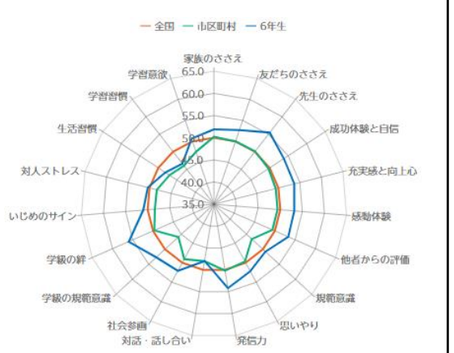
□成果（〇）と課題（▲）

〇「月と太陽」で月の見え方や名称を理解している。
〇植物の学習で、でんぷん反応など実験した成果が出ている。
▲蒸散や植物の水の通り道など理解していない。
▲動物やヒトの体(臓器)の働きを理解していない。

□今後の取組みについて

・実験や観察では目標をはっきりさせて取り組む

児童質問紙調査



□大切に取り組んできたこと

行事のたびにクラス、学年で１つになって取り組もうとした。学習に長く集中できない児童がいるので個別支援や個別の声かけを心がけた。

□成果（〇）と課題（▲）

〇「先生のささえ」の項目が高い。
〇「学級の絆」の項目が高い。
▲「学習習慣」の項目が低い。宿題の提出率が悪い。
▲「生活習慣」の項目が低い。遅刻が多い。

□今後にむけて

「学習習慣」と「生活習慣」が極端に低い。家庭と連絡を取り合いながら、子どもの支援を促したい。
「対話・話し合い」も低く、学習の中でペアワークやグループワークをもっと取り入れていく。